

心がはずむ 体がはずむ

一人一人の自己肯定感を高め
未来の礎を育む



高松市立幼稚園・高松市こども園長会

令和6年11月 改訂

生涯にわたる人格形成の基礎を培い
未来を切り拓くための資質・能力を育む

高松市立幼稚園・高松市こども園では
子どもが主体的に関わり、育ち合える教育環境を創造します

子どもが安心して自己発揮できる ような 保育者の幼児理解や関わり

- *一人一人の人権を尊重し、思いに寄り添い、肯定的に受け止める
- *一人一人の発達の特長、興味・関心を理解する
- *一人一人に応じた支援や指導を行う

遊び込み 試行錯誤しながら 様々な体験ができる教育環境

- *やりたいことに繰り返し取り組む
- *達成感や充実感、葛藤を味わう
- *感じたこと、気付いたことから次の意欲を高める
- *友達と対話、協同、共感する



自発的な遊びの中で育つ 非認知能力

非認知能力とは、意欲や協調性、忍耐力、やり遂げる力などのこと

ノーベル経済学賞受賞者のジェームズ・J・ヘックマン博士（米）は『幼児期に質の高い幼児教育を受け、非認知能力を身に付けることが、その後の学力向上や幸福、経済的な安定につながる』という研究結果を報告しています。

幼児期の自発的な遊びには認知能力（理解力や思考力）だけでなく、非認知能力が育つ内容が多く含まれています。

環境を通して行う教育

Q. 環境って、なあに？

A. “人・もの・こと” など
子どもが出会うものすべて！

「何だろう」「やってみたい」と興味や関心を持った「環境」に直接かわかることで得られる体験が、子どもにとって発達するうえでの豊かな栄養となります。

子どもが「環境」にじっくり関わっているか、満足感や充実感を得ているかなど一人一人の経験していることを捉えながら、子どもの発達に即したものとなるように、常に「環境を再構成」するのが教職員の重要な役割です。

学校教育全体の生活や学習の基礎を培う
幼稚園・こども園の教育

新しい時代に求められる
資質・能力

＊知識・技能
＊思考力・判断力・表現力等
＊学びに向かう力・人間性等

高等学校

小学校・中学校

幼稚園・こども園

連続した
発達・学び

家庭 地域
関係機関



幼児期は、遊びを通した総合的な指導の中で、
将来につながる学びの重要な基礎を育てていきます

幼児教育において育みたい資質・能力

- ＊知識・技能の基礎 豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり
分かったり、できるようになったりする
- ＊思考力・判断力・表現力等の基礎 気付いたことや、できるようになった
ことなどを使い、考えたり、試したり、
工夫したり、表現したりする
- ＊学びに向かう力・人間性等 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活
を営もうとする

幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより
見られるようになる幼児の育ち



家庭とつながる



親と子が共に育つ家庭連携

◆毎日の送迎・懇談会・教育相談◆

教職員と保護者が、お子さんの日々の様子や成長を伝え合ったり、相談したりする機会をもっています。



◆保育参観、参加・保護者交流◆

お子さんと一緒に活動する体験や保護者同士の親睦を通して子どもの発達やかかわり方を知ったり子育ての楽しさを感じたりすることができます。



◆家庭教育応援講座◆

専門家による講話やワークショップなど子育てのヒントが得られる機会があります。



子育ての支援

地域の幼児期の 教育センターとして



◆園庭・施設開放◆

未就園の子どもと
保護者が安心して
遊べる場を提供
しています。



◆体験入園・行事参加◆

親子で行事に参加したり
園の子どもたちと
触れ合って遊んだりする
機会を設けています。



◆子育てや発達相談◆

子どもの発達やかかわり方、生活習慣、
遊び等の相談に応じます。
専門機関等の紹介もしています。

地域とつながる

心がゆれうごく豊かな体験

地域の中で様々な人とのかかわりや、自然・文化伝統との触れ合いを通して、豊かな感性や情緒を育みます。

◆地域の人が見守る安全な園◆

コミュニティ協議会等と連携し、地域の園として大切にされています。



地域の人々のやさしさや温もりを感じる交流ができます。

◆直接体験 ～自然・文化・伝統～◆

畑や公園等、地域の自然の中で遊んだり、行事に参加したりします。



特別支援教育



子どもの可能性を 最大限に伸ばすことを大切に

高松市立幼稚園・こども園では、「**インクルーシブ教育**（様々な特性をもつ子どもが共に学ぶ教育）」を大切にしています。



- ◆一人一人の特性に応じた環境やかかわりを大切に、温かい集団をつくります。
- ◆家庭と園での様子を共有しながらお子さんに丁寧にかかわります。
- ◆関係機関や就学先と連携を図り、連続性のある就学につなげます。
- ◆視覚的に分かりやすい支援ツール等を活用し、個別の支援を行います。

1	とんねる ふうが をくぐる	
2	おどる	
3	いすにすわる	
4	ぼんぼんをもっておどる	

個に応じた支援ツール



幼児教育とは…

子どもの学びをつなぐ



学びの芽生え「遊びを通した学び」

遊びや生活の中で、様々な対象と直接かかわりながら総合的に学んでいく

子ども同士 が つながる

* 学校への安心と期待

- 幼児が小学校の施設を利用する機会をつくっています。
- 小学生や小学校の先生とかかわる互恵性のある交流活動を行っています。

教育内容 が つながる

* 幼保こ小の架け橋プログラム

- 教職員が共通の視点を持ち、幼児期から児童期の発達や学びがにつながる教育課程の作成・改善を図っています。
- 「育みたい資質・能力」を共有しています。

教職員 が つながる

* 参観・研修会

- 教職員が互いの授業や保育を参観しています。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を参考に子ども理解や教育内容について協議する機会をもっています。

小学校教育とは…



学びの芽生えをさらに伸ばす 「幼児期の学びを活かした学習」

課題の解決に向けて、計画的に学習を進めていく

幼児教育の専門家として

子ども一人一人に愛情をもって関わり
教育環境づくりを行うために

教職員研修を通して

実践力や総合的な人間力を高めています

～ 研修内容 ～

幼児理解	人権・同和教育	特別支援教育
健康・運動	自然・環境	表現・造形・音楽
自己評価	安全・保健・衛生	
小中学校との連携	・接続	
コンプライアンス等		

園内研修



教育・保育課程や保育記録等をもとに、日々の保育内容を考え環境を準備します。教職員間で子どもの育ちや保育内容について話し合う『**保育カンファレンス**』を行い、多面的に幼児の内面を理解し、環境の再構成をします。

園外研修



他園の保育を参観し、多くの関係者と協議したり、教材研究をしたりして、実践力を高めます。また、各専門家による講義を受講し、専門性を高めます。

園評価

園運営について保護者・地域・園関係者から意見や協力を得ながら、教育内容や環境などの改善を図っています。

遊びの中の学びと環境・事例1

砂・土・水に関わる遊び



直接触れて感じるこ、感じたことを友達と共有すること、試すこ、イメージすること、協力することなど、遊び込むうちに、いろいろな経験が蓄積されます。

異年齢で交流しながら思いに沿って遊んでいる砂場にも、子どもたちが、思わず関わったり、試したりしたくなる環境や援助など、様々な成長のチャンスが仕組みられています。

思いや気付きを伝え合いながら、心と体を動かして遊びに取り組みます。

言葉による
伝え合い

「砂が熱いよ」
「水は冷たくて気持ちいいね」
「こっちのほうが涼しいよ」
「プリンができたよ」
「おいしそー♪」

豊かな感性
と表現

「この穴、もっと深く
しよう」(しっかり
足を踏ん張って)

健康な
心と体

「もっと水が
いるよ」
「こっちのバケツ
の方がいっぱい
運べるね」
「重〜い！」

数量や図形、
標識や文字等へ
の関心・感覚



「すぐに崩れて
しまう」
「もう1回挑戦
しよう」

自立心

「小さい貝殻
見つけたよ！」
「海から
来たのかな？」

自然との関わり
生命尊重

「こっちから
掘るね〜」
「こっちからも掘る
よ〜」
「やったー！
つながった」

協同性

「雨どいを持ちあげてみたら？」
「流れるスピードが速くなっ
た！」
「もっと持ちあげてみようよ」
「めっちゃ速くなる
んじゃない？」

思考力の
芽生え

「何作ってるの？」
「こっちが海で
こっちが島だよ」
「ここからフェリーで
渡るんだよ」

社会生活
との関わり

「貸して」
「今使ってるからダメ」
「じゃあ後で貸して」
「うん、ちょっと
待ってね」

道徳性・規範
意識の芽生え

私たちも一緒に遊んで
感じたことを伝えよう。

雨どいの傾斜と水の流
れ方に気付いていた
ね。何度も流して試せ
るように、水を汲む場
所を近づけておきまし
ょう。



〇〇ちゃんは自分から「貸して」って言え
たし、貸してくれるのを待とうとしていたね。

すぐに使いたい気持ちと葛藤しながら、待とうと
している姿を認めていこう。

代わってもらってうれしい気持ちを伝えること
で、互いのことがより好きになるかも。

遊びの中の学びと環境・事例2

作りたい・描きたいする遊び

今までの経験を活かし、イメージしたことを友達に伝えたり、考えを共有したりしながら、遊びを自ら創りだしていくことで、協力し合うこと、やり遂げた達成感、相手の思いに気付くなど様々なことを学んでいきます。



学級みんなで読んだ絵本の中に出てきた恐竜が作りたくなった5歳児。

友達とイメージを共有しながら、イメージしたことを実現したいという気持ちが高まってきました。どんな環境が必要かな？

経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で伝えたり、相手の話を聞こうとしたりすることを繰り返し、相談しながら遊びを創っていきます。

言葉による
伝え合い

「黄色と、赤のシマシマにするとカッコイイかな？」

豊かな感性
と表現

「大きなダンボールを組み立てるのは難しいな…。でも、諦めないよ」

自立心

「羽の形は四角より三角がいいかな」
「入る場所が分かるように、『いりぐち』って書いた紙を貼ろう」

数量や図形、
標識や文字等
への関心・感覚



「大きな恐竜を作ろう！」
「テープで羽を付けようよ」
「じゃあ、こっち側を押さえておくね」

協同性

「背中に乗れるようにするのはどう？」
「その考えいいね！」
「このダンボールが立つようにしたい」
「この棒で支えてみる？」
「2本にしてみよう」

思考力の
芽生え

「できあがったら、お客さん呼びたいね」
「遊園地みたいにチケットを作ろう」

社会生活
との関わり

「登ってばかりいないで手伝ってよ」
「上の方を確かめていたんだよ」
「そうだったんだ」
「交代してみる？」

道徳性・
規範意識の
芽生え

昨年の年長児の遊びを思い出して、自分たちもやってみたいんだね。

どんなふうに作りたいか、どんな材料が必要か、考えたことを伝え合う場が大切だね。

うまくいかないことがあっても、諦めずに次の方法を考える姿を認めよう。



子どもたちの発想が広がったり、試したりできるような素材を準備しよう。

作り変えながら、イメージが膨らんできたね。遊び込める時間を確保しましょう。

家庭からも必要な素材を選んでくるかもしれないね。お家の方にも子どもの思いを伝えておこう。